

首都大学東京 大学教育センター

年報（全学共通教育部門）

平成25年度

目次

大学教育センターに専属する教員の平成 25 年度における活動.....	2
大森不二雄 教授.....	3
永井 正洋 教授.....	5
林 祐司 准教授.....	7
柚原 一郎 准教授.....	9
渡辺 雄貴 助教.....	11

(職位別・氏名の五十音順)

平成 25 年度『首都大学東京大学教育センター年報（全学共通教育部門）』には、平成 26 年 4 月 1 日に大学教育センターに在籍しており、他の学部・系ないし研究科等の業務を兼務せず、大学教育センターに専属する大森 不二雄 教授、永井 正洋 教授、林 祐司 准教授、柚原 一郎 准教授、渡辺 雄貴 助教 の 5 名の教員の平成 25 年度における教育・研究の状況について記載した。

なお、他部局と兼担している教員については各自が所属する学部・系ないし研究科等で発刊している年報を参照されたい。

—平成 26 年 7 月×日 公開—

大学教育センターに専属する教員の平成 25 年度における活動

大森不二雄 教授

高等教育論

担当科目

基礎ゼミナール

「グローバル人材」をめざす学び

研究実績の概要

高等教育、教育政策、教育社会学

グローバル化する知識社会に対応できる大学教育・大学院教育の在り方を探究する視点から、教育プログラム（学位課程）の開発、教育の組織的質保証と戦略的経営の統合的枠組、教育政策に関する社会学的分析等に関する研究を進めた。

国内外の高等教育の趨勢、政策動向、大学の事例等の調査・分析、並びに、本学の学士課程教育及び全学共通教育のこれまでの成果と課題の検証を踏まえつつ、CP、DPに即した全学共通教育プログラム等の一層の改善・改革を図るための知見が得られた。

研究成果から得られた知見を大学教育センター長・教務委員長・基礎教育部会長・大学教育推進担当課長等と共有することによって、本学の教育改善に貢献した。

研究実績

学会発表

- ・大森不二雄「教育委員会の有終の美を目指して～当事者と研究者の統合的視点から見たガバナンス問題～」関西教育行政学会 例会（於：新日本ビル梅田店），2013年11月16日。
- ・大森不二雄「大学ガバナンスと教学マネジメント～首都大学東京の場合～」広島大学高等教育研究開発センター第41回研究員集会（於：広島大学），2013年12月7日。

論文発表又は著書発行

- ・大森不二雄（2013）「教育委員会の有終の美を目指して」『週刊教育資料』2013年10月28日号（No.1272），38頁。
- ・大森不二雄（2014）「どうなる 教育委員会<3> 民意の反映、もっと重視を」『日本教育新聞』第5954号（平成26年2月10日），3頁。

科学研究費補助金

・とくになし

特記事項

なし

永井 正洋 教授

情報教育

担当科目

情報基礎A
情報リテラシー実践 I
情報リテラシー実践 IA
情報リテラシー実践 IIA
情報リテラシー実践 IIB
情報科教育法 II

研究実績の概要

情報教育、教育工学、数学教育

概ね学生は意欲的に授業に取り組み、教員の説明や対応も評価すると共に、情報リテラシーが身についたと認識し、満足していたことが分かった。この傾向は、ここ5年以上続いており、情報リテラシー実践 I のカリキュラムが、継続かつ安定して学習者に評価及び支持されていると考えられる。反面、課題となる側面としては、授業内容をどちらかというとなしと難しいと感じている学生が多いことと、授業外での学習時間の不足が示された。

授業改善アンケート（FD 員会版）及び授業評価アンケート（部会版）からは、概ね学生が意欲的に授業に取り組み、教員の説明や対応も評価すると共に、情報リテラシーが身についたと認識していることが分かった。更に、その結果、全般的に授業を受講して満足していたことが示された。反面、課題となる側面として、授業内容をどちらかというとなしと難しいと感じている学生が多くいると共に、授業外での学習時間が不足していることが明らかになった。これらのことを基に、情報リテラシー実践のテキストとなる e ラーニングコンテンツの開発を行った。

研究実績

学会発表

- ・ Masahiro Nagai, Noriyuki Matsunami "A Survey on the Relationship between Informal and Formal Learning using e-Learning at an Elementary School in Japan" SSRE2013 (The 2013 Annual Conference of the Swiss Society for Research in Education) at the Università della Svizzera italiana, in Lugano, Swiss, Accepted as Poster, August 21-23, 2013. (査読付き)・

論文発表又は著書発行

特になし

科学研究費補助金

- ・平成 23, 24, 25 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C), 課題番号 23501162, デジタルペンとマインドマップを用いた小学校における論理的思考力の育成, 研究代表者

特記事項

なし

林 祐司 准教授

キャリア形成

担当科目

基礎ゼミナール
キャリア形成
現場体験型インターンシップ

研究実績の概要

キャリア形成に関する研究（とくに新卒採用）

- ・ 本年度に行った代表的な研究は林（2013a）である。大学新卒採用選考における面接における面接者の評価と、応募者が自分自身の面接における言動について行った自己評価の関連を中心に実証的な検討を行った。データは内定者を対象に実施したアンケートデータと、採用選考における面接者の評価結果（いわゆる人事マイクロデータ）をマージしたものである。分析の結果、面接者の評価は応募者の資質（宣言的知識、手続的スキル・能力、モチベーション）に規定されること、面接の構造化はその関係を強化しうること、応募者は面接者の評価を推測できること、応募者の組織に対する期待は応募者の面接における自己評価が高いときに高いことが実証された。学会発表を行ったので、学術雑誌に投稿した。

研究実績

学会発表

- ・ 林祐司（2013a）「大学新卒採用活動において採用担当者がつける評点」『日本労務学会第43回大会全国大会研究報告論集』pp.331-338。
- ・ 林祐司（2013b）「書評分科会報告：松尾孝一『ホワイトカラー労働市場と学歴』学文社2012年」社会政策学会第128回大会（大阪経済大学）

論文発表又は著書発行

- ・ 林祐司（in press a）「採用内定から組織参入までの期間における新卒採用内定者の予期的社会化に関する縦断分析」経営行動科学学会『経営行動科学』（査読あり）。
- ・ 林祐司（in press b）「書評・松尾孝一著(2012)『ホワイトカラー労働市場と学歴』学文社」社会政策学会『社会政策』。

科学研究費補助金

とくになし

特記事項

なし

柚原 一郎 准教授

英語教育

担当授業

英語 I
英語 I
実践英語 Ia
実践英語 Ib
実践英語 IIa
実践英語 IIb

研究実績の概要

言語学、英語学、英語教育

意味に関する現象を形式に関する現象として議論したため、本来進むべき方向と異なった方向に進んでしまった生成文法影響下の言語研究の現状に警鐘を成らし、是正を促すことを目的とする研究を進めた。

首都大学東京の英語教育の質を高めるため、学生たちが、高校英語と大学入試の英語でどのようなレベルに達し、またどのような課題があるのかを検証するための準備の資材集めをした。

研究実績の概要

学会発表

- ・ 柚原一郎「認知言語学がこのままではいけないわけ」日本フランス語学会 2013 年度シンポジウム (2013 年 6 月 1 日 国際基督教大学)

論文発表又は著書発行

- ・ Yuhara, I. (in press). Review: The Modular Architecture of Grammar by Jerrold M. Sadock. *English Linguistics*, 31:1 297-311.
- ・ 酒井智宏、西村義樹、守田貴弘、河内一博、柚原一郎 (印刷中)「シンポジウム報告：認知言語学の功罪－「個別言語」と「言語」と「認知」のせめぎあい－」『フランス語学研究』第 48 号： pp. xx-xx.

科学研究費補助金

- ・ なし

特記事項

なし

渡辺 雄貴 助教

教育工学

担当授業

基礎ゼミナール
情報リテラシー実践 I A
情報リテラシー実践 II A
情報リテラシー実践 IIB

研究実績の概要

大学教育における、インストラクションデザインモデルの構築

大学教育を対象に、(1)モバイルラーニングコンテンツにおける情報提示の方法論の検討、(2)大学におけるピアチュータリングによる学生支援の検討を行った。具体的には、(1)では、電車環境を想定した実験室実験を行い、学習以外の情報が学習効果に与える影響について考察し、(2)では、ハワイ大学マノア校、ブリガム・ヤング大学ハワイ校、公立はこだて未来大学を訪問、インタビュー調査を行い、その方法論、設備、運営体制などを検討した。

高等教育機関が実施する機関分析 (IR: Institutional Research) を対象に、(1) 教学 IR システムに関する検討課題の整理および、(2)学習者に注目した自己管理学習 (SDL: Self-Directed Learning) 能力に注目した調査を行った。具体的に(1)では、情報を可視化するための要件整理、ダミーデータの試作を行い、(2)では、は学生の SDL に対するレディネスと授業が求める自己管理度のマッチングを目的として、学生自身の科目選択および授業時間外学習の支援を促すための要件を検討した。

研究実績の概要

学会発表

- ・松田岳士，渡辺雄貴，重田勝介，加藤浩（2014）SDLRS と学習活動の関係性—科目特性と自己教育力のマッチングの検討—，日本教育工学会研究会，印刷中（2014年3月1日）
- ・野田啓子，渡辺雄貴，美馬のゆり，鈴木克明（2014）ピアチュータリングによる学習支援システムの構築に向けて—ハワイ大学マノア校の学習支援組織調査を例に—，日本教育工学会研究会，印刷中（2014年3月1日）
- ・渡辺雄貴，野田啓子，鈴木克明，美馬のゆり（2014）ピアチュータリングによる学習支援システムの構築に向けて—ブリガム・ヤング大学ハワイ校の学習支援組織調査を例に—，日本教育工学会研究会，印刷中（2014年3月1日）

- ・渡辺雄貴, 加藤浩, 西原明法 (2013) モバイルラーニング動画コンテンツ視聴時の他情報介入の影響の測定に向けて, 日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集, 357-358 (2013 年 9 月 15 日)
- ・松田岳士, 渡辺雄貴, 重田勝介, 加藤浩 (2013) 教学 IR システムに関する検討課題の整理—汎用性を備えたダミーデータ作成の試み, 日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集, 775-776 (2013 年 9 月 15 日)
- ・美馬のゆり, 鈴木克明, 椿本弥生, 渡辺雄貴, 根本淳子, 大塚裕子 (2013) ピアチュートリングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発, 日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集 (課題研究), 167-170 (2013 年 9 月 15 日)

論文発表又は著書発行

- ・ Robert V. Reiser, John V. Dempsey (編著) 鈴木克明, 合田美子 (監訳) 半田純子, 根本淳子, 沖潮満里子, 椿本弥生, 寺田佳子, 渡辺雄貴, 山田政寛 (訳) (2013) インストラクショナルデザインとテクノロジー-教える技術の動向と課題, 第 22~25, 29, 35 章, 北大路書房 (2013 年 9 月 28 日)

科学研究費補助金

- ・研究代表者: 科学研究費補助金 (若手研究(B)) 多様な学習環境における学習方略を考慮した動画コンテンツクロスメディアモデルの構築 (2012-2014)
- ・研究分担者: 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) ピアチュートリングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発 (研究代表者 美馬のゆり) (2012-2014)
- ・研究分担者: 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) デジタルペンとマインドマップを用いた小学校における論理的思考力の育成 (研究代表者 永井正洋) (2011-2013)
- ・研究分担者: 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 学生の自己管理学習を支援する教学 IR 情報提示システムの開発と評価 (研究代表者 松田岳士) (2013-2015)
- ・研究分担者: 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 大学生の学習活動との関係に見る成績評価の適切性 (研究代表者 串本剛) (2013-2015)

特記事項

なし